

Diario en México

octubre de 2018

メキシコの特別な日、「死者の日」

皆さんは、「リメンバーミー (原題: COCO)」という映画をご存知ですか? その内容の奥深さは然る事ながら、一つ一つの場面描写が非常に綺麗で日本でも大ヒットしました。実はこの映画のテーマは、メキシコの「死者の日」なんです! 「死者の日」とは日本でいうお盆みたいなもの。ただし! その様子は日本とはまるで違います。オフレンダ (祭壇) を派手に装飾し、お酒やパンデムエルト (死者の日のためのパン)、フルーツなどをお供えし、周りをマリーゴールドのお花でいっぱいにして亡くなった家族をお迎えます。日本のお盆は 8 月ですが、メキシコの死者の日は 11 月 1、2 日に当たり、その日はフィエスタでメキシコ中が大盛り上がりとなります。かくいう私も、大家さんや友人たちとフィエスタに参加してきました!!



友人たちと。死者のようなメイクをして街を練り歩きました。



右の写真の建物、上部にお墓が展示されているらしいです。

👉 **オフレンダ**。フィエスタの会場に多く展示されていますが、作り手によってその趣向はバラバラ。ひたすらカラフルに彩られているものもあれば、十字架のみを多く立てたシンプルなものもありました。しかし、共通する点は必ずマリーゴールドの花がちりばめられていること。

この花はあの世と祭壇を繋ぎ、死者を運ぶのだそうです。そういえばCOCOにも同じような描写が…。



◀**パンデムエルト**。写真は1/4カットのものですが、十字架のような模様になっています。これは骨に涙が流れている様子を表しているそうです。味は死者に敬意を表すとされる柑橘系。この時期になるとパン屋さんはこのパンで溢れかえります。大家さんお手製のcapuchinoと相性抜群。年中買いたいんだけどなあ。

前述したように、メキシコのお盆は日本とは雰囲気や様式が全く異なります。しかし、私が「死者の日」を通じて感じたことは「**亡くなった家族を盛大に、かつ丁寧に迎え、温かく送り出すこと**」。外見や中身は違えど、その根底にある精神は日本と共通するのだと思いました。そして「リメンバーミー」はこの伝統文化を細やかに表現してありますのでぜひ観てみてください！！

お好み焼き、大盛況！

先日、日墨会館に於いて秋祭りが開催され、広島県人会のお手伝いとしてお好み焼きを作ってきました。あ、もちろん広島のお好み焼きですよ！（そういえば大学入学時、広島県民に「広島風」と言ったら怒ると聞いて驚きました・）客寄せで一旦抜け、再び戻ると長蛇の列が。私も微力ながらお好み焼きを作りました。食べに来てくれた友人やメキシコ人から「美味しかったよ！」の声を多くいただきました。どうやらお好み焼きはメキシコ人の舌に合うようです。

☞お手伝いメンバー。





◀なかなか途切れることのなかった長蛇の列。私が思うに、広島県人会のブースが一番繁盛していたと思います。



◀ちゃんとお好み焼きも作りました！メキシコ人に作り方を教わるという謎の構図が出来上がってましたが（笑）、なんとか形にはなっていた気がします。来年帰ったらもっと腕を磨く予定です。多分。

おまけ：メキシコシティ大断水

10/31-11/4にかけて上水道整備のため、私たちの住むメキシコシティで断水が発生しました。始めの方は貯水タンクのおかげでなんとか凌げましたが、タンクの水が尽きてしまい自由に水が使えなくなってしまいました。普段私たちが水を使う場面や頻度、量の多さを改めて知ると同時に、水の重要性を再認識しました。これから水を使用する際は、節水を常に心がけたいと思います。ちなみにこれを書いている現在（11/7）も水は復旧していません。整備後に不備が見つかったとか何とか。なんだかメキシコらしい気もしますが早く復活してもらいたいものです…。でも焦ってもなあ…。Ni modo, ni modo（仕方ない、仕方ない）。